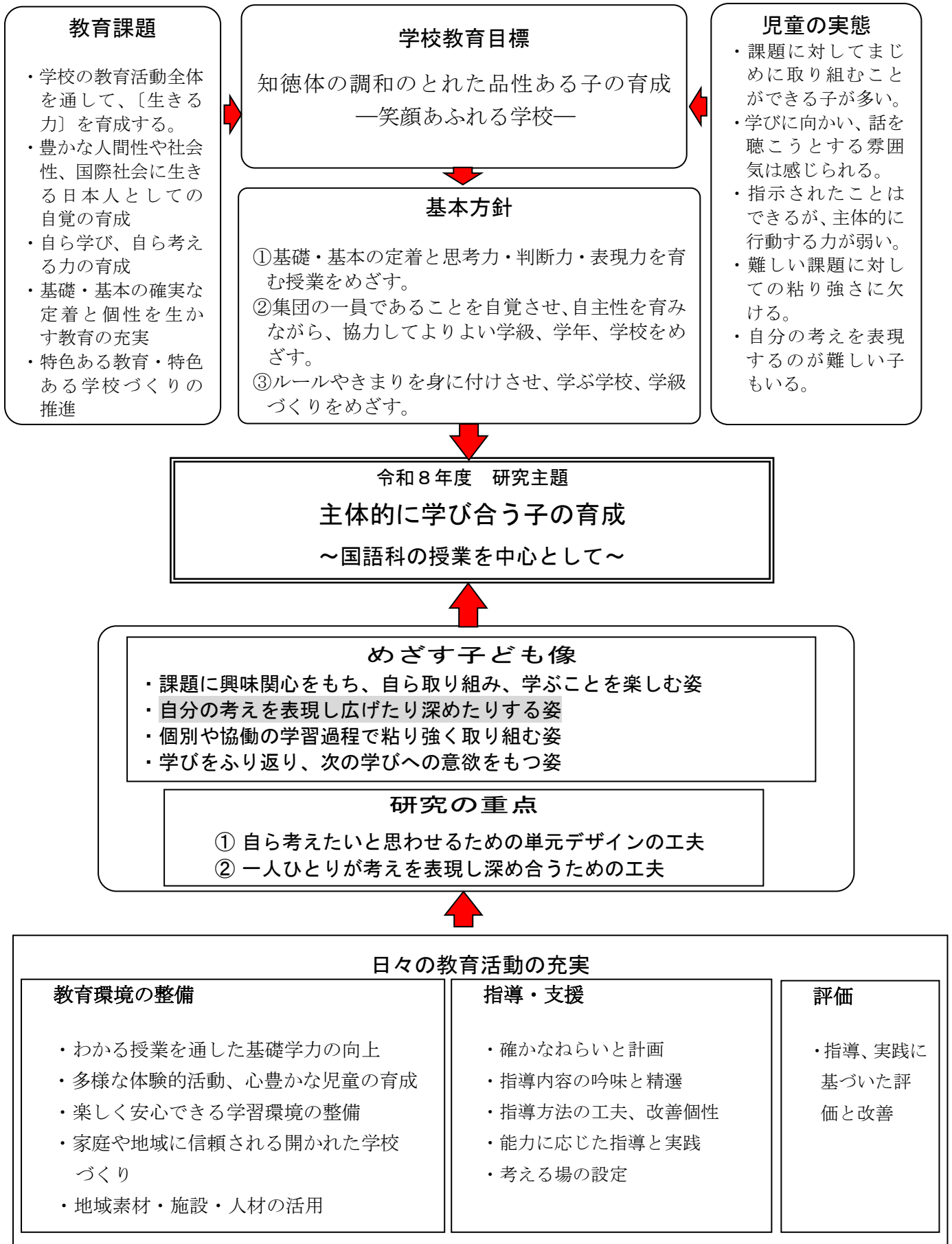


令和8年度 校内研究計画

1 研究の全体構造図



2 研究の概要

(1) 研究主題と副題

主体的に学び合う子の育成

—国語科の授業を中心として—

(2) 研究主題設定の理由

本校では昨年度までに引き続き研究主題を「主体的に学び合う子の育成」とし、研究を進めてきた。この研究主題のもと「自ら考えたいと思わせるための単元デザインの工夫」「一人ひとりが考えを表現し深め合うための工夫」の2つを重点として、国語科に実践を絞り研究を積み重ねてきた。

成果として単元のどの場面を個で自己決定し学びを進めていく時間とするかを工夫したり単元ゴールの工夫を図ったりして、児童の考えたい、やってみたいという意欲を引き出す授業のイメージの共有ができたことが挙げられる。また、考えを表現し伝え合う場面では全文シートや思考ツールを用いて考えの見える化を図ったり、伝え合う目的をはっきりさせたりすることで、必要感のある交流を行う姿も見られるようになってきた。

しかし、課題として、その時間につけたい資質能力が身につけられたかという点で、まだ十分とは言えないことが挙げられる。ねらいを達成している姿とはどのような姿なのかを教師がさらに具体的にイメージをし、子ども達の見取りと個に応じた支援を細かに行っていく必要がある。また単元の序盤は意欲をもっているものの、終盤まで課題を自分事として捉え粘り強く自分から学びに向かっている姿にまでは至っていない。

このような実態から、昨年度に引き続き、児童が主体的に考えを伝え合う姿を目指していくことが必要であると考え。そこで、今年度も国語科の授業を中心に研究することで、言語を通して自分の考えを伝え合う力を子どもたちにつけ、さらには他教科や学校生活の他の場面にも波及することを目指していきたい。

重点は昨年度に引き続き重点①「自ら考えたいと思わせるための単元デザインの工夫」とし、児童主体で個別や協働の学習過程で粘り強く学習に取り組んでいく姿につなげるにはどのように単元をデザインしていくとよいのかを研究していく。児童のやってみたい、考えてみたいという興味関心を高めるだけでなく、つけたい力を身につけるための単元ゴールの設定になっているのか、また課題を自分事として捉え意欲的に学びに向かう姿につなげていけるかという点でも改善を図っていきたい。重点②は「一人ひとりが考えを表現し深め合うための工夫」とする。自分の考えを表出するだけでなく、話し手は、根拠や理由を明確にして伝え合ったり、聴き手は自分と友達のことを比べながら聴き合ったりする中で、自分の考えを深め「わかった、できた」という姿につなげていく。そのためには教師のどのような工夫が効果的なのか研究を進めていく。

この二つを重点として、全教職員で国語科を中心として「主体的に学び合う子」の育成を目指し、学校研究を進めていく。

3 研究構想図

①学校教育目標

知徳体の調和のとれた品性ある子の育成
～笑顔あふれる学校～

②研究主題

主体的に学び合う子の育成
—国語科の授業を中心として—

研究仮説

国語科の授業を中心として「どうしてだろう?」「考えてみよう」など児童が課題に対して興味関心を持ち、個別や協働の学習過程において、試行錯誤しながら学びを進め、友だちと考えを伝え合わせ、自分の考えを深め合うことができれば、「わかった」「できた」という満足感や充実感を味わうことができ、主体的に学び合う子が育成できるだろう。

<研究の重点>

重点1 自ら考えたいと思わせるための単元デザインの工夫

重点2 一人ひとりが考えを表現し深め合うための工夫

基礎基本の定着

学習規律

生徒指導の4つの視点を生かした
学びの集団づくり

学びの土台

4 めざす子ども像

課題に興味関心を持ち、自ら取り組み、学ぶことを楽しむ姿

個別や協働の学習過程で粘り強く取り組む姿

自分の考えを表現し広げたり深めたりする姿

学びを振り返り、次の学びへの意欲をもつ姿

5 研究の重点

重点1 自ら考えたいと思わせるための単元デザイン の工夫

<具体的な手立て>

☆必要感のある導入

- 考えたくなる言語活動の工夫
- 教科の内容と日常生活を関係付ける
- モデルの提示
- 単元終末ではどんな姿になっていたいかを児童と共有する

☆課題解決の見通しをもたせる

- 授業の流れ, ゴールを示す
- 「こうしてみよう」という解決に向けた自己決定
- 既習掲示(学習計画・既習内容・学習用語)の活用
- 実物・具体物・ICTの活用

☆個に委ねる場面の設定

- 一人ひとりが試行錯誤をする場を設定
- 個別に学びを進めるための学習環境の整備
- ワークシートや全文シート, 付箋紙の活用
- 語彙表・国語辞典・類義語辞典の活用
- 根拠に線, 理由を書き込む
- 効果的で柔軟な時間配分

☆きめ細かな個別支援

- 個に応じた机間指導
- ヒントの提示
- 考える視点を与える

☆学びの振り返り

- 毎時間の学びをつなげるための振り返りの充実

重点2 一人ひとりが考えを表現し深め合うための工夫

<具体的な手立て>

☆聴き方・話し方の工夫

- 根拠と理由を明確にした話し方
- キャッチボール言葉の活用
- 具体的な質問(児童・教師)
- 児童の発言の価値づけ

☆交流の場面の工夫

- 必要感を引き出す働きかけ
- 目的を明確にした交流(考えをもつ・増やす・くわしくする など)をもたせる
→交流後, めあてが達成できたか振り返る
- 目的に応じた意図的グループ編成(同じ考え・違う考え, 同じ場面・違う場面同士 など)
- GIGA端末やワークシートの活用

☆問い返しの吟味

- 本時でつけたい力につなげるための問い返し
「…と…を比べてどう思った?」「つまり?」「本当にそうかな?」「…と何が違うかな?」
「…の場合はどう?」「いくつにまとめられる?」など問い返しシートを活用して

☆構造的板書の工夫

- 対比・分類・関係・キーワードなどの可視化
- 視覚的にわかりやすい色の活用

6 学びの土台

(1) 学習規律 (生徒指導部と連携)

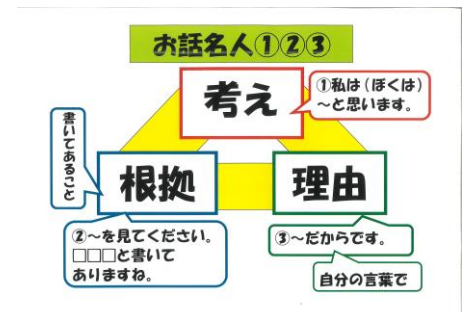
- チャイムで授業をスタートし,チャイムで終わる。
- 身だしなみを整える。
- 授業の初めと終わりのあいさつは,授業者と目を合わせてはっきり声を出す。
- 視線を合わせて話し合う。
- 持ち物のきまり (持ち物スタンダード表) や,ノートの使い方を守って学習する。
- 次の学習の準備をしてから休憩する。

(2) 基礎基本

- 授業の終末 15 分間で習熟に取り組む
- さわやかタイム (基礎基本問題・活用問題・補充プリント など) の活用
- 学年×10分の家庭学習時間の定着
- 直しの徹底
- 毎学期の基礎基本テスト (算数) の実施

(3) 学びの集団づくり

- 聴き方・話し方の指導






- 生徒指導の4つの視点を生かした「学びの集団づくり」

- 授業につなげる「わくわくお話タイム」

月1回さわやかタイムを使って、会話のキャッチボールを楽しむ時間をとり、楽しみながら話したり聞いたりできるようにする。子どもたち同士の問い返しのスキルを身に付け、授業につなげていく。

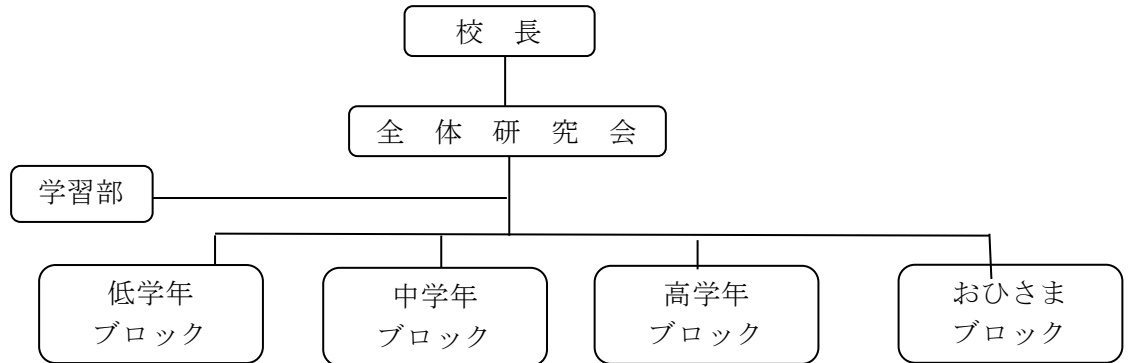
7 広陽授業モデル（主体的に学び合う子をめざして）

	区切り	単線型	複線型
準備	チャイムまでに	○前の時間の終わりの挨拶の後、次の授業の準備、確認	・前の時間のものは片付け、次の時間で使うものを机の上に準備する
構え	チャイムスタート	○はじめの挨拶	・大きな声で「始めます」教師は見届ける。
導入 5分	既習の確認	○既習について確認する ・学習問題の工夫【全員挙手】	●前の時間はどんな勉強をしましたか？ ・～について勉強しました。 ・～がわかりました。
	問いを見つけて課題をつくる	○考えたくなる課題づくり (子どもとつくる・必要感をもたせる) <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; display: inline-block;"> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな、どうなって(観点) ・どうして(理由) ・どのように(様子) ・どうしたら(方法) </div>	●今日考えていきたいのはどんな問いについてですか。 ・今までは・・・だったのに、どうして？ ・～するにはどうすればいいのかな？ ・～はどうなっているのかな？ ・～ってどんなことかな？  
	見通しをもつ	○ゴールへの見通しを持たせる	●今日のゴールは…ができたらいいなだね。 ●○○を解決していこう。
展開 25分	自力解決	<u>○一人ひとりが自己決定をしながら考えを表現し深め合う</u> <u>(考え・根拠・理由)</u>	<u>○一人ひとりが学び方を自己決定し、自分のペースで学びを進めていく</u> <u>(考え・根拠・理由)</u>
	交流 深める	<u>個別</u> ●根拠（叙述・図など）に線を引きましょう。 ●根拠をもとに、理由と考えを書きましょう。 ・文章や資料、式などから○○だとわかるな。 ・考えを言葉だけでなく、図や式を入れて書いてみよう <u>ペア、グループ、全体交流</u> ・キャッチボール言葉を使って ○構造的板書 ○思考を深め、自分の考えを再構築させるために問い返す ・考えの分類・対比・関係 ・考えの共通点や違い ・…の場合はどうかな？ 	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 20px; text-align: center;"> <p><u>学び方の選択</u></p> <p>何を 誰と どこで 順序 方法 時間配分など</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 20px; text-align: center;"> <p><u>協働的な学び</u></p> <p>友達と考えを交流し深め合う 教師によるコーディネート</p> </div> ○見方・考え方を促す ○学びを深めるための環境整備 ・既習掲示 ・関連資料 ・ICT活用 ・ヒントカード ○個の見取りと支援 ○思考を深め、自分の考えを再構築させるために個に問い返す <div style="float: right; writing-mode: vertical-rl; font-size: small;">【効果的で柔軟な時間配分をする】</div>
終末 15分	課題のまとめ ふり返り	○課題に正対したまとめ 自分の言葉で 条件をつけて ○適用問題 学びの定着【全員挙手】 ○振り返り ① 自分の変容 ② 友達の良さ ③ 思ったことや考えたこと ○見取り（評価）	●今日の課題はく 〈 〉 でしたね。 ●課題についてどんな言葉でまとめられそうですか？ ●今日のキーワードは何ですか？ ●今日の勉強で考えが変わったところ、わかるようになったところはどこですか？ 
締め	チャイムで終わる	○終わりの挨拶	・大きな声で「終わります」教師は見届ける

8 研究方法

(1) 研究組織

- ・研究単位は低中高の3低・中・高学年・おひさまの4ブロックで行う。
- ・学習部から校内研究の基本線や推進案を提案し、全体研究会で共通理解を図る。
- ・研究の重点をもとに、各学年・ブロックで授業研究を進め、全員が年1回公開授業をする。



(2) 研究授業等の基本方針

- ・研究授業は目指す児童の姿、ねらいを明確にして実施する。
- ・級外も含めて、全員が研究授業を行う。全体研究授業3本（低中高各1本）を行い、その他の学年とおひさまは、ブロック研究授業とする。
- ・全体研・ブロック研代表者以外は、学年で事前研・事後研を行う。
- ・助言者の要請は、各学年1本ずつの研究授業の事後整理会で行う。研究内容の共通理解を深め、研究の充実を図る。
- ・全体研究授業は全員で、ブロック研究授業は各ブロックで事前研究会・事後整理会を行う。
- ・研究授業の際には、定型の指導案を作成する。授業後には考察をまとめ、研究紀要に綴る。
- ・級外は、できるだけ所属する学年、もしくはブロックで研究授業を行う。

(3) 研究計画

